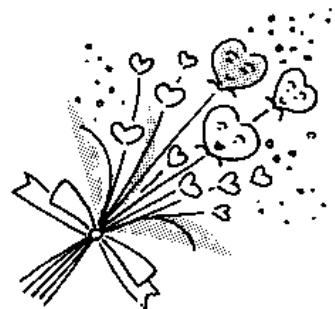


広島県医療労働組合連合会

執行委員長 八幡 直美 様

メッセージ



広島県医労連第39回定期大会の開催おめでとうございます。

貴労組のみなさんが全国各地で医療産別の方針に固く団結し、仲間と共に闘う姿に心から敬意を表します。

3月11日の東日本大震災と東京電力福島第1原発事故からすでに6ヶ月になろうとしています。福島県の状況は、日々発表される放射線量を気にしながらの生活が続き、とりわけ、子供たちの健康への不安は深刻です。原発事故により故郷にいつ戻れるか分からない避難者は9万5千人、このうち県外への避難者は3万5千人を超えています。

もはや、原発と国民の安全な生活は両立できません。よって原発依存をやめ、再生可能エネルギー中心の社会への政策転換を強く求めます。国際的にも、ドイツ、イタリア、スイスなどで原発廃止に踏み出しています。世界有数の地震大国である日本で、原発をこれ以上続けることはできません。

大震災からの復興とこれからの日本を考えるとき、私たちは、いのちと安全を最優先する社会づくりをこそ進めようではありませんか。医療・福祉・介護分野の労働組合の役割は重要です。

貴大会のご成功を祈念し、連帯のメッセージと致します。

2011年9月4日

福島県医療労働組合連合会

執行委員長 斎藤 富春

さいとう よしはる